

第5回 魅力ある県立短期大学づくり検討委員会 議事録

1 日時

令和7年2月21日（金）午後2時から午後3時10分

2 場所

鹿児島県庁行政庁舎6階 大会議室

3 出席した委員

津曲座長，松田委員，村井委員，黒木委員，国松委員，福留委員，飯干特別委員

4 議事の概要

(1) 協議・説明

① 事務局から，資料に基づき，以下の事項を説明

提言書（案）について

県栄養士会からの要望書について

(2) 主な意見等

【提言書（案）】

○ 座長

- ・ 提言書（案）については，委員からの質問のないため，この内容で提言書とし，知事に提出させていただく。

【総括】

○ 福留委員

- ・ これまでの議論を踏まえて，事務局中心にまとめていただき，感謝申し上げます。
- ・ 提言書としてまとめて，知事に提出するかたちで一区切りになると思うが，これからがスタートになる。
- ・ 今回まとめた内容について，今後，提言がどのようなかたちになっているかどうかは，定期的に検証が必要である。
- ・ 提言があるから，魅力が高まるわけではないし，独立行政法人化等の継続課題のようなところもあるので，時間をおいて見ていかないといけないと思う。
- ・ 本年度において，このようなかたちで帰結したが，時代と地域の要請に応じて，魅力の形も変わっていく可能性もあるので，その時点において何が最適かというのは，絶えず追求していただきたい。

- ・ 県栄養士会からの要望についても、完璧とは言わないまでも、委員会で議論したことと通ずるところはあるので、課題として受け止めて、なんらかの形で対応していく部分があると思う。
- ・ 私も今回このようなかたちで携わらせていただいたことに非常にありがたいと思うと同時に、これで終わりではなくスタートにして、何かお手伝いできることがあればさせていただければと思う。

○ 座長

- ・ 冒頭で、「提言書は終わりではなくスタート」と御発言いただいたが、提言書をどのようにして、しっかり進めていくかというのは、福留委員のおっしゃるとおり、進捗等をチェックしながら進めていく必要がある。

○ 松田委員

- ・ 最終的な提言については、このような形でまとめていただきありがとうございました。
- ・ 提言書にまとめられていることは、具体的なカリキュラムをつくってくださいということではなく、一定の方向性を示したものに過ぎないと思う。
- ・ 今後、こうした方向性で具体的なカリキュラムを県立短期大学で設計していくこととなるので、頑張ってもらいたい。
- ・ 鹿児島純心女子短期大学の募集停止を発表されたのを聞いて、少子化というのは歯止めがきかないということを想定した教育の在り方を考えなければいけない。
- ・ 教育制度の運営を考えたときに、民間でできる部分は当然あるが、行政が大いに関わる必要性がある部分、言い換えれば、民間でできることは民間で頑張ってもらい、民間でできないことを行政がすくい上げていくのは行政の仕事だと思っている。
- ・ 独立行政法人化とも関係するが、あらゆる事情で四年制大学を選択しない高校生もいると考えられるし、社会に出た、あるいは家庭を持った後に学び直したいという方、芸能人でもそのような方が見受けられるが、このように学び先を選ぶということで、多様な選択肢というものは残しておく必要がある。
- ・ 民間の原理で図りにくい部分でこそ行政が力を発揮して、教育の側面において多様な学びを残しておくことも重要。
- ・ 魅力ある県立短期大学づくりの検討を行ってきたことは、意義のあったことと思う。

- ・ また、提言にまとめられているように、現在の県立短期大学の資源を更に活用していただきたい。
- ・ この委員会で最も印象に残っていることは、在校生との意見交換において、何のために県立短期大学に入ったのかという学生の目的意識の高さや将来の人生設計がしっかり行えているというところに心を動かされたところ。
- ・ もっと工夫をすれば魅力は高まっていくと考えられる。
- ・ 一人でするのでなく、みんなです。鹿児島大学も含めて、県内の大学、短大が連携することが大事である。
- ・ 提言書にもあるが、大学間連携はこれまで以上に深めていただきたい。企業との連携に関しても、企業の方々からみれば、自らの会社に入社する学生と一緒に育てるという意味も含まれていると思われるので、しっかりやっていただきたい。
- ・ ネーミングの方向性についても、学生も含めて一緒になって考えていくと魅力が高まると考えている。
- ・ 検討委員会に参加して自分自身も勉強になり、刺激になった。鹿児島県の高等教育と一緒に盛り上げたいという気持ちになった。

○ 村井委員

- ・ 三重短期大学も県立短期大学と同じような規模や構成であり、似たような課題もあったので、自身の勉強にもなったところ。
- ・ 設置者や県民の意向もだが、文部科学省や中央教育審議会の方針等も踏まえつつ、大学運営しなければならず、中央教育審議会から出された、文部科学大臣への答申において、大学運営において質（クオリティー）・規模（サイズ）・アクセスの3つがポイントになるとされている。
- ・ 県立短期大学は、県内入学者が9割、そして就職もほとんど県内であるとのことで、サイズとアクセスは問題ないのかと思われる。
- ・ 今回の検討委員会において、今ある資源をより良くというところで、クオリティーの見直しだったと感じたところ。
- ・ 大学運営には認証評価の指針に沿った対応も必要になり、次回の認証評価のポイントにおいて、オンライン授業や環境整備が上がっているので、施設整備は行政側にお願いせざるを得ない部分があるので、提言書に「デジタル化やA Iの時代に対応した教育の充実」とあるので、大学側はカリキュラムの充実を図るとともに、行政側は環境整備等予算措置を検討いただけるものと思っており、次回の認証評価にも対応した提言になっていると感じたところ。

- ・ また、次回の認証評価においては、基準協会が全学生にアンケートを行い、大学側にはその結果がフィードバックされないと聞いている。そういう意味でも、今回の検討委員会を通して、質の向上に努められることで学生の満足度も上がることと思われる。
- ・ 文部科学省では、大学の設置等の認可や届出後、4年間は毎年必ず審査することになっており、設置の目的、目標、理想が叶えられているかのチェックを行うものである。
- ・ 県立短期大学においても、外部評価委員会があると思うので、今回決まったことの進捗状況を定期的に検証していただくことが必要。
- ・ ここでは、良いことが書いてあるが、文学科の教育の見直しについては、新たな教員を雇わず、今在籍している教員にカリキュラムや教育方法を変えてもらうのは、ストレスフルなことと思われる。
- ・ 今回の県栄養士会からの要望について意見はないが、三重県において、管理栄養士の数の不足状況は把握していないが、管理栄養士課程を持つ学校において、例年定員を割っている状況になる。社会で足りていない状況とその課程を設置して学生確保につながるか、運営が成り立つかという、社会のニーズと大学運営のバランスが三重県においては、難しいと考えている。

○ 黒木委員

- ・ 出願状況について、県立短期大学が増やした推薦枠に応じた出願状況であり、一般入試に関しても、枠は減ったが、昨年よりも30人ほど増えている状況であった。
- ・ 提言書にも記載があるが、入学者選抜方法が生徒にとって大きなポイントであり、今は一般入試、学校推薦型選抜、総合型選抜の3種類の入試をしている学校が多い。
- ・ 必ずしも学校長の推薦を要しない総合型選抜の在り方は、導入していただけるとありがたい。
- ・ 一方で、学校で自信を持って推薦するということは、高等学校の生徒の指導の在り方にも大きな影響を与えるものであるため、現在の学校推薦制度も残しつつ、総合型選抜を導入する形が望ましいと考えている。
- ・ いずれにしても、現在は年内入試の意識が強くなっている印象。
- ・ 国会で高校教育無償化の話が出ているが、高等教育についても、多子世帯に対する支援が打ち出されると思われる。県立短期大学は公立の学費の安さ、第二部の学費等考えると、大きなアピールポイントになる。
- ・ 学費が安いなどの県立短期大学の安心感、修学支援の制度も整っている、これらの制度概要等を高校側が生徒に伝えないといけないと思

- っているので、情報をいただけると高校側としてもありがたい。
- ・ 高校は県立短期大学と年に1回の連絡会もあるので、そういった場で意見交換ができたらと思っている。
 - ・ 教員として勤めていた際に県立短期大学と関わる機会があったが、志の高い良い生徒が志望している印象であった。そういった生徒たちをさらに伸ばしていただきたい。
 - ・ 高校側としても、少子化、多様な価値観、ニーズに生徒たちが惹きつけられる中で、県立短期大学の方にというニーズが何なのかというところは連携しながら掴んで生徒たちに伝えていきたい。
 - ・ 県立短期大学とは、今後も鹿児島県高等学校長会としても連携していきたい。

○ 座長

- ・ 大学においては、年内入試の傾向が出ているので、県立短期大学も年内入試にも力を入れていくべきだと思う。黒木委員御指摘のように3つの入試形態は必要だと思っている。
- ・ 戦略として入試はしっかり考えていくべきである。

○ 国松委員

- ・ 今の学校を取り巻く問題や課題に対してどのようにして対応していくか、委員の方々から話を伺いながら勉強させていただいた。
- ・ 企業側からの立場で、どういうところを学生に期待するか、大学に期待するかという観点で意見してきたところ。
- ・ 提言書の中に企業とのやりとりに関して、企業は大学に情報提供して、大学もPRする、双方の意見交換の場を増やしていくといった地域社会・企業との連携が色濃く反映されたと思っている。
- ・ 一年間の委員会を通じて、一番印象深いのは、現地に伺ったときのことである。学生の目的意識等の高さには驚いた。
- ・ 当初は、四年制の議論は常につきまとうと考えていたが、県短で学生の皆さんと意見交換をさせていただいて、1年前後でここまで仕上がっていることに驚いた。
- ・ 2年間の短大で学生がここまで仕上がるのであれば、十分に企業でやっていけると感じた。
- ・ また、そのような学生を育てられる短大であれば、1つの選択肢として十分にあるなと思いを新たにしたところ。
- ・ そういう意味では先ほども話があったが、高校の授業料の補助や無償化等の議論がされているが、学生にとって高校や大学への入学が、少子

化もあって、今よりも比較的行きやすい環境が整っていくと思う。

- ・ そうしたときも、引き続き短大として選ばれるように、内容の充実というのを引き続き頑張っていっていただきたいと思う。また、5年後10年後もしかしたらもっと先に、競争が激しくなっているかもしれないので、不断の内容見直しを引き続きやっていただきたいと願いを込めてコメントとさせていただきたいと思う。一年間ありがとうございました。

○ 福留委員

- ・ 県短に対して持っていたイメージが、この委員会の中で、皆さんとの議論や現地を視察させていただいたことで、印象がこの1年で変わったと思っている。
- ・ 県短の魅力を高めるための委員会であったが、まだ魅力はあり、それが魅力として伝わっていないのも結構あると感じた。
- ・ そういうところを打ち出す情報発信というのも議論であったが、まだまだできるところが相当あるのではないかと認識を改めたことが一番大きな部分と思っている。
- ・ 四年制化の話は、委員会で少し触れさせていただいたが、報道等で歴代の学長へのインタビューも含めて、出ていた。これに関してもそれぞれの立場で、色々な考えがあるところは十分理解できる。
- ・ 我々としても、決して真っ向から否定しているわけではなく、時代とともにまだ必要な部分があれば、議論する必要はあるでしょうが、まずはそこに行くまでの前の段階であり、現状の組織の中で出来る部分があるということを議論したというのは、非常に意義があった。
- ・ 少子化の流れは、如何ともしがたい部分があるが、それに身を任せるだけではなく、先手で手を打っていく部分があるのではないかな。
- ・ そこが、みんなで知恵を出すところ思うので、1年間議論を深められたのは、大きな収穫の1つだったと思う。
- ・ 繰り返しになるが、今後さらに、今回の議論を踏まえ、県短が魅力アップして、鹿児島県学生、教育、産業等の様々なところで、いい影響が出ることを期待している。

○ 座長

- ・ 不易と流行ではないが、どのような視点、切り口で、県短を議論するのかということだと思う。
- ・ 今のこの時期にこの議論をすることは非常に重要で、流されるだけの議論ではなく、今持っている魅力をまず検証していかない限り、このま

まというわけにはいかないと思う。

- ・ そういう意味では、ここで県立短期大学の魅力を検証する機会ができたのは、本当によかったと思う。

○ 飯干特別委員

- ・ 委員の皆様におかれましては、貴重な御意見をいただきありがとうございました。
- ・ 教授会で学長報告を行っているが、本委員会が終わった次の月に内容について報告している。
- ・ 総合型選抜については、三重短期大学に話を伺ったりして、公立短期大学で実施していないのは、数える程しかないと説明している。
- ・ 3つのポリシーについては、ほとんど出来ている状況。
- ・ PRの効果について、本委員会でアンケート等を実施したことで、県立短期大学とこれまで縁がなかった企業の就職担当者に訪問いただいた。
- ・ 認証評価について、確定したものではないものの今のところ適合の評価をいただいているが、いくつか改善点も指摘されている、また、県立短期大学における外部評価委員会においても、自己点検・評価報告書をもとに評価いただき、たくさん検討事項などの御意見をいただいているところ。
- ・ そして本委員会でも御意見をいただいたので、まとめて4月の最初の教授会で、本学としてやるべきことを伝え、取り組んでいきたいと思う。
- ・ 今よりも良い県立短期大学を作らないといけないと思っている。

○ 座長

- ・ 全国の四年制大学進学率を私は七五三で表現するが、東京が70パーセント、全国平均が50パーセント、鹿児島が30パーセントである。
- ・ それに短期大学を付け加えると、鹿児島は40パーセントほどになる。
- ・ 東京について、短大進学は数パーセントくらいしかない。
- ・ 今後、鹿児島が70パーセントになるかというとおそらくそれはない。
- ・ 大学進学率は所得にそれなりに比例しており、東京の進学率が高いからといって、東京が鹿児島より学力が高いというわけでもないと思っている。
- ・ 鹿児島において、四年制大学が約30パーセント、短期大学が約10パ

一セントであり，専門学校が約 20 パーセントを占めている。四年制大学の約 30 パーセントのうち，約 20 パーセントは県外に出ており，約 10 パーセントが県内である状況。

- ・ 県立短期大学に入学した人の約 90 パーセントが公立高校であり，卒業後も約 90 パーセントが鹿児島に残っている。
- ・ 短期大学の競合校は四年制大学もあるかもしれないが，一番は専門学校であると考えている。
- ・ 短期大学に行くか，専門学校に行くかの選択となり，この層が下がって，専門学校が増えている傾向が見られる。
- ・ 今回の本委員会でも議論になったが，結果的にリベラルアーツを強めるということであるが，専門学校と短期大学の差というのは，専門学校は最初から専門的な技能・技術を習得する，短期大学はリベラルアーツから入るとというのが主である。短期大学は専門性に劣るということで，すぐに就職するなら専門学校が良いと思っている流れがあるのではないかと個人的に分析している。
- ・ 短期大学において，技術・技能を強めていることが良いのかというと，そうでもない，むしろ技術・技能等の専門性というよりは，会社に入ってから，もしくは次のステップで考えれば良いとの議論であった。
- ・ 基本的な常識，良識，そして地域を愛する地域との経済や観光に関係してくるリベラルアーツをしっかりとやっていく。
- ・ 技術・技能よりも課題解決能力が大事でリベラルアーツ教育にプラスして課題解決能力をフィールドワーク，社会や地域と連携しながらやることで，リベラルアーツが生きてくる。
- ・ 地域に愛着，愛情を持って，しっかりした仕事ができる人材の育成につながる。
- ・ この委員会において，これらの考えの共有感といったものがあつたと思っており，結果的にリベラルアーツ教育，課題解決能力というものが出てきた。
- ・ 学生に対して高校，企業，大学との連携によって総合的な課題解決能力，リベラルアーツ教育を生かしていこうというのが，提言の一つの骨のようになっていると感じている。
- ・ それにしても県立短期大学が少し地味になっていて，もっと P R，プロパガンダしないといけない。
- ・ 地域との連携も P Rの一つであり，認知度を上げていこうというのが，もう一つの柱である。
- ・ 県立短期大学は短期大学としては極めて充足率が高いが，落ちてきているのは夜間課程。

- ・ ただ、夜間課程を閉じるとなると、鹿児島で働きながら学べる場所がなくなるので、死守すべきであるという見解であった。
- ・ 夜間課程を残しながら存続させていくためには、DXなど新しい分野に見識を深めていくべきだと議論が連なってきたところ。
- ・ 加えて、夜間課程が持っているリカレント教育。教員が持つ資質を社会に出し、社会から学び直すということも県立短期大学でできるようにというところでリカレント教育という議論も出てきたところ。
- ・ この提言というものは、この時期に作ったものであり、これがスタートであるので、検証して、我が行いにせずばかいなしとしてチェックしていただくというのはそのとおりであり、時代とともに教育の在り方を考える時期がまたくるかもしれないが、今はまず、この提言内容についてチェックしていくのは大切。
- ・ この委員会の課題というのは今後も定点として見ていきたいと思う。

(3) 県栄養士会からの要望について

○ 座長

- ・ これまで魅力ある県立短期大学づくりということで、短期大学が持っている資源をどう活用していくかを議論していたところである。
- ・ 栄養士の件については、第4回検討委員会でも触れたところであり、栄養士は2年であるが、大学との連携の中でその後の大学への進学により、管理栄養士の受験資格を得る道があるのではないかなど議論させていただいたことを記憶している。
- ・ その中では、養成課程を作るという議論には至っておらず、大学との連携というところで議論を終えていたところ。
- ・ 管理栄養士については、県の保健福祉行政、栄養関係の施策の方向性の議論でもあると思われるので、要望書については、知事に報告させていただきたい。
- ・ また、県立短期大学の当局にもこのような要望書をいただいたと報告させていただきたいと考えているところ。
- ・ 提言書については、提言書（案）が取りまとめられているところであるので、この方向で進めたいと考えている。

（委員から意見・質問無し）

- ・ 要望書については、知事、県立短期大学及び事務局に報告させていただくということで取りまとめさせていただく。